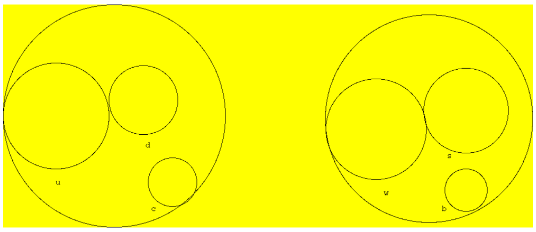
素数分布論と素粒子、ゼータ関数
超対称性理論

Masaaki Yamaguchi



$$(u+d)+c=e^{-f}-e^{f}, b+(w+s)=e^{-f}+e^{f}$$

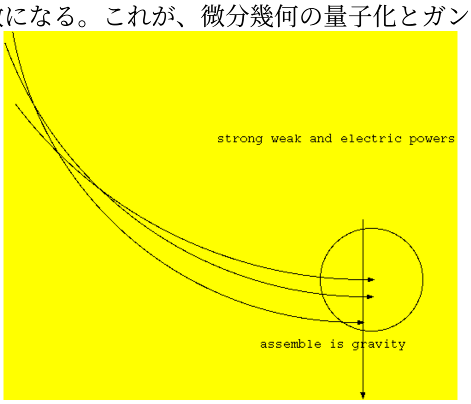
$$\int\int \frac{1}{x^s}\mathrm{dvol}-\int \log x\mathrm{dvol}=\frac{d}{df}\int\int\frac{1}{(y\log y)^{\frac{1}{2}}}dy_m-\int Cdx_m$$

$$=e^{-f}-e^{f}$$

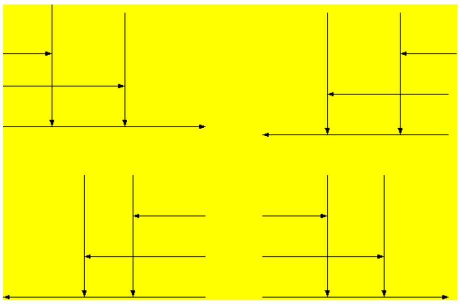
$$\frac{d}{df}F=\frac{d}{df}\int\int\frac{1}{(x\log x)^2}dx_m+\frac{d}{df}\int\int\frac{1}{(y\log y)^{\frac{1}{2}}}dy_m$$

$$=e^{f}+e^{-f}$$

素粒子方程式は、２種類の素粒子と１種類の素粒子の組み合わせで、Jones 多項式をペアーで構成されている。Rico level 理論をベースにして、強い力と弱い力、電磁気力が、誤差を D-brane 間を重力が graviton として伝わっているのが、洩れて、反重力をこの Weak electric theory に加えると、全部の力が合わさって、統一場理論が完成される。これが、ヒッグス場とオイラーの定数を多様体を次元として、加群すると、ゼータ関数になる。これが、微分幾何の量子化とガンマ関数でもある。



$$||ds^2||=e^{-2\pi T|\psi|}[\eta+\bar{h}(x)]dx^{\mu}dx^{\nu}+T^2d^2\psi$$



素数分布論が、ゼータ関数を開集合として同型でもあり、ノルム空間、経路積分として、位相差が原子間力にもなっている。このエネルギー分布が、素数と素粒子方程式、宇宙と異次元のフェルミオンとして、一致している。このエネルギー分布が、複素多様体である。

$$\square = 2(\cos(ix \log x) + i \sin(ix \log x)$$

宇宙と異次元が、双対性として、超対称性の素粒子を形成している。

[reference Lisa Randall, Toshihide Masuoka, Makoto Kobayashi]